

閑窓雑記（一）：雑録

著者	山田, 準
雑誌名	龍南會雑誌
巻	83
ページ	41-42
発行年	1900-11-30
その他の言語のタイトル	閑窓雑記（一）：雑録
URL	http://hdl.handle.net/2298/5052

閑窓雜記 一

教授 山 田 準

余は久しく部門の紅塵に埋もれて閑窓 遠なりしが、此地に來りてより、門庭蕭寂凡案清 又閑窓の樂を享くるを得 禿筆を向えて輯録せる所少からず、其中學生諸子の參考に資すべきものふきにあらず。試みに其一を茲に摘録す。

○漢學の素養

余は本校昨年の一部入學生に就き、其の家庭又は中學に於て從來講讀、又は素讀せる漢文書目を調査せしに、左の結果を得たり。こは教師が學生の漢學素養を知る上にも、一般漢學の趨勢を知る上にも、裨益する所少からざるべし。

一、總人員 三十四人

一、書名 書名の下に記入せる數字ハ、講讀又ハ素讀せる人員の數さま。漢文讀本の類及ひ員數二人に限れる書名ハ省く。

日本外史	三三三	文章軌範	三〇〇	論語	二九
十八史略	二四	孟子	二三三	史記	二一
中庸	二〇	大學	一九	唐宋八家文	一七
小學	一五	日本政記	一三三	孝經	六
詩經	四	靖獻遺言	三	春秋左氏傳	三

近古史談	三	新選叢語	三	蒙求	二
說苑	二	資治通鑑	二	皇朝史畧	二
禮記	二	忠經	二	本朝名家文範	二

右の結果に因れば、日本外史は三十四人中三十三人の讀者を有し、最優の位置を占め、文章軌範論語之に次ぎ、順次讀者を減し、日本政記の十三人に至りて一頓し、孝經以下は俄然讀者を減少せり。されば日本外史以下日本政記に至る十一種は、今日普通教育に於ける漢文の程度と學生の素養とを見るに於て、至當の標準ならんか。尙一人にして各書に涉れるは、十三種を最多とし、三種を最少とす。

詩人の自殺

野々口湖海

吾死なむといひて自から殺し、詩人の心はいかなりけむ。われは一たびの遺せる辭の微情を穿ちて、ありし心の秘奥を叩かむと欲す、叩かば開かれむ心の秘奥にわが雙眼の透らば、暗中に反映せしむるところもあらむ。

二千二百載の後の人、自ら渠が知己たらむと願はむは嗚呼なり。たゞわれは一の批評者として、こ